

2021年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年7月31日

上場会社名 インヴァスト証券株式会社 上場取引所 東
 コード番号 8709 URL <https://www.invast.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 川路 猛
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 三ヶ田 裕信 TEL 03-6858-7100
 四半期報告書提出予定日 2020年8月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第1四半期の連結業績（2020年4月1日～2020年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		純営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第1四半期	1,088	△3.3	1,076	△1.0	59	△49.2	61	△44.7	35	△55.9
2020年3月期第1四半期	1,125	18.4	1,087	18.8	117	104.6	110	52.2	81	18.3

(注) 包括利益 2021年3月期第1四半期 △74百万円 (△177.9%) 2020年3月期第1四半期 95百万円 (573.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第1四半期	6.10	-
2020年3月期第1四半期	13.84	-

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第1四半期	102,859	10,660	10.3
2020年3月期	107,903	10,849	10.0

(参考) 自己資本 2021年3月期第1四半期 10,643百万円 2020年3月期 10,829百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	-	18.00	-	19.00	37.00
2021年3月期	-	-	-	-	-
2021年3月期（予想）	-	18.00	-	19.00	37.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

(注) 配当は、連結配当性向30%または連結純資産配当率(DOE) 2%(年率)のいずれか高い方を目安とし、実施いたします。当社は業績予想を開示していないため、2021年3月期の配当予想につきましては、DOEを基準とし、2020年3月末時点の純資産の2%を配当総額とし、2020年3月末時点の発行済株式数(自己株式を除く)で除した額を基礎として算定しております。

3. 2021年3月期の連結業績予想（2020年4月1日～2021年3月31日）

当社の主力サービスである外国為替証拠金取引は、外国為替市場や株式市場等の市況、その他国内外の経済環境等に大きく左右される傾向にあり、業績予想が困難であるため、業績予想の開示は行っておりません。

その代替として、営業収益等の営業指標を月次概況として開示しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー社 （社名）除外 ー社 （社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年3月期1Q	5,904,400株	2020年3月期	5,904,400株
② 期末自己株式数	2021年3月期1Q	28,069株	2020年3月期	28,069株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年3月期1Q	5,876,331株	2020年3月期1Q	5,876,331株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

当社は利益の配分について、安定的な配当の継続を前提としつつ、業績に応じた適切な利益還元を行うことを基本方針とし、中間配当、期末配当の年2回の剰余金の配当を行ってまいります。

配当は、連結配当性向30%または連結純資産配当率（DOE）2%（年率）のいずれか高い方を目安とし、実施いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(追加情報)	10
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの感染が世界規模で拡大していることによる貿易の大幅な縮小や、緊急事態宣言を受けた国内経済活動の停滞が重石となり、製造業を中心に企業収益は大きく減少しました。感染が先行した中国では、封じ込めが奏功したことで経済の早期回復に期待が持たれましたが、先進国では制限の緩和が第二波の感染拡大リスクとなりました。日本経済の先行きに対しても、世界的な感染拡大が収束に向かうまでは輸出やインバウンド需要の回復が見込めず、また、雇用環境も厳しい状況が続いているため、短期での回復は期待し難い状況が続いています。

外国為替市場では、コロナウイルスの感染度合いや米中の主権争いが相場に影響を与える展開となっておりますが、リスクオンとリスクオフにおいて、ドルと円が同様の動きを繰り返したことで、ドル円相場は105円から110円のレンジで、比較的安定した値動きとなりました。

クロス円については、Brexit交渉で進展の見えないポンド円はもみ合う展開となっておりますが、主要国の金融緩和で株式市場が活況なことからリスクオンが優勢となり、一般的に円安傾向で推移する状況となりました。

株式市場は、3月の急落を受けて日米欧の主要国が大胆な金融緩和に踏み切ったことで急激に反発する展開となっており、特にステイホームで注目された情報通信関連株の多い米ナスダック市場は、史上最高値を更新して10,000台に乗せる場面も見られました。

このような経済状況のもとで、当社は、注力サービスである「トライオートFX」のリニューアル(7月18日実施)に向け、事前に自動売買を予約することができる予約注文の受付を開始し、あわせて、「三大祭キャンペーン」と題した大規模キャンペーン等を行う等、顧客取引の拡大を図りました。

一方で、オーストラリアの子会社Invast Financial Services Pty Ltd. (以下「IFS」といいます。)は、前期の顧客決済不足金(立替金)発生に伴い、取引管理体制の整備を行ったことによる顧客減少による影響が大きく、業績好調だった前年同四半期と比較し、売上・利益ともに大きく減少しました。

これらの結果、当社グループの当第1四半期連結累計期間の営業収益は10億88百万円(前年同四半期比96.7%)、純営業収益は10億76百万円(同99.0%)となりました。また、販売費・一般管理費は全体で10億17百万円(同104.8%)となり、営業利益は59百万円(同50.8%)、経常利益は61百万円(同55.3%)、親会社株主に帰属する四半期純利益は35百万円(同44.1%)となりました。

なお、当社は、2020年10月1日(予定)を効力発生日として、単独株式移転の方法により、完全親会社であるインヴァスト株式会社を設立し、持株会社化することを決定いたしました。持株会社体制への移行は、新規事業の創出や、事業多角化を進めるうえで、事業提携、M&A等の手段を活用しやすくするだけでなく、事業会社への一定の権限委譲による意思決定の迅速化、リスク管理の最適化等、当社グループの成長の基盤となる重要な施策であると考えております。

セグメントの業績概況は次のとおりであります。

① 国内金融事業

国内金融事業においては、当社が取引所FX/CFD、店頭FX/CFD事業を行っております。

また、子会社インヴァストキャピタルマネジメント株式会社が貸金業(不動産業者向けファイナンス、中小企業向け事業資金ファイナンス等)を行っております。

国内金融事業の純営業収益は7億65百万円(前年同四半期比118.7%)となり、セグメント利益は48百万円(同411.7%)となりました。

② 海外金融事業

海外金融事業においては、オーストラリアの子会社IFSが店頭FX/CFD取引及び証券取引サービスを行っております。IFSの決算日は12月31日となっているため、当第1四半期連結累計期間においては、2020年1月から3月までの実績を反映しております。

海外金融事業の純営業収益は3億21百万円(前年同四半期比71.6%)となり、セグメント利益は7百万円(同7.3%)となりました。

主要な収益・費用等の状況は次のとおりであります。

① 受入手数料

当第1四半期連結累計期間の受入手数料の合計は2億14百万円(前年同四半期比157.5%)となりました。内訳は以下のとおりであります。

・取引所為替証拠金取引に係る受取手数料	81百万円(同148.6%)
・委託手数料	10百万円(同255.5%)
・投資顧問料	1百万円(同41.6%)
・その他の受入手数料	1億20百万円(同164.6%)

② トレーディング損益

当第1四半期連結累計期間におけるトレーディング損益は、7億62百万円(前年同四半期比90.4%)の利益となりました。これは店頭FX取引等によるものであります。

③ 金融収支

当第1四半期連結累計期間における金融収支は、13百万円(前年同四半期比30.2%)となりました。主な発生要因は預金利息によるものであります。

④ 販売費・一般管理費

当第1四半期連結累計期間における販売費・一般管理費は、10億17百万円(前年同四半期比104.8%)となりました。主な内訳は以下のとおりであります。

・取引関係費	2億53百万円(同136.6%)
・人件費	3億19百万円(同94.1%)
・不動産関係費	3億11百万円(同95.2%)
・事務費	7百万円(同65.8%)
・減価償却費	63百万円(同134.1%)
・租税公課	40百万円(同119.4%)
・その他	21百万円(同83.5%)

⑤ 営業外収益

当第1四半期連結累計期間においては8百万円の営業外収益を計上しており、その内訳は以下のとおりであります。

・為替差益	6百万円
・貸倒引当金戻入額	0百万円
・未払配当金除斥益	0百万円
・その他	0百万円

⑥ 営業外費用

当第1四半期連結累計期間においては6百万円の営業外費用を計上しており、その内訳は以下のとおりであります。

・匿名組合投資損失	5百万円
・固定資産除却損	0百万円
・その他	0百万円

⑦ 特別利益

当第1四半期連結累計期間においては0百万円の特別利益を計上しており、その内訳は以下のとおりであります。

・金融商品取引責任準備金戻入	0百万円
----------------	------

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比較して50億43百万円減少し、1,028億59百万円となりました。流動資産は50億65百万円減少し、1,016億38百万円となりました。

流動資産の主な増加項目は、預託金の増加28億30百万円と短期差入保証金の増加90百万円であり、主な減少項目は、借入金の減少等に伴う現金・預金の減少28億56百万円、短期貸付金の減少3億4百万円と外為取引未収入金の減少47億16百万円であります。

また、固定資産は前連結会計年度末と比較して21百万円増加し、12億21百万円となりました。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は921億99百万円となり、前連結会計年度末に比べ、48億53百万円減少しました。流動負債は、48億62百万円減少し921億32百万円となりました。

流動負債の主な増加項目は、受入保証金の増加8億86百万円であり、主な減少項目は、短期借入金の減少31億円と外為取引未払金の減少24億69百万円であります。

また、固定負債は、前連結会計年度末に比べ9百万円増加し59百万円となりました。

特別法上の準備金は、7百万円となりました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は106億60百万円となり、前連結会計年度末と比較して1億89百万円減少しました。主な減少要因は配当金の支払いによる1億11百万円及び在外連結子会社の円貨換算レートが円高になったことに伴う為替換算調整勘定の減少1億17百万円であり、主な増加要因は親会社株主に帰属する四半期純利益35百万円の計上であります。

この結果、自己資本比率は10.3% (前連結会計年度末は10.0%) となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループの主力サービスである外国為替証拠金取引は、外国為替市場や株式市場等の市況、その他国内外の経済環境等に大きく左右される傾向にあり業績予想が困難であるため、業績予想の開示は行っておりません。

その代替として、営業収益等の営業指標を月次概況として開示しております。

また、2021年3月期における新型コロナウイルスの感染拡大による業績への影響は、現時点において認識しておりませんが、影響が認められた場合には、速やかにお知らせいたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金・預金	8,664	5,807
預託金	20,456	23,287
顧客分別金信託	2,790	3,690
顧客区分管理信託	17,260	19,291
その他の預託金	405	305
短期差入保証金	49,690	49,780
外為取引未収入金	25,987	21,270
短期貸付金	1,588	1,284
その他	322	212
貸倒引当金	△4	△3
流動資産計	106,703	101,638
固定資産		
有形固定資産	199	180
無形固定資産	334	348
投資その他の資産	665	693
投資有価証券	118	118
出資金	396	400
繰延税金資産	22	20
その他	128	154
貸倒引当金	△0	△0
固定資産計	1,199	1,221
資産合計	107,903	102,859
負債の部		
流動負債		
受入保証金	71,291	72,178
短期借入金	4,100	1,000
外為取引未払金	20,976	18,507
未払法人税等	126	32
賞与引当金	75	19
役員賞与引当金	50	8
その他	373	386
流動負債計	96,994	92,132
固定負債		
繰延税金負債	8	29
その他	41	29
固定負債計	50	59
特別法上の準備金		
金融商品取引責任準備金	8	7
特別法上の準備金計	8	7
負債合計	97,053	92,199

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,965	5,965
資本剰余金	2,313	2,313
利益剰余金	2,579	2,503
自己株式	△34	△34
株主資本合計	10,824	10,748
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	118	125
為替換算調整勘定	△113	△231
その他の包括利益累計額合計	5	△105
新株予約権	4	4
非支配株主持分	15	12
純資産合計	10,849	10,660
負債・純資産合計	107,903	102,859

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
営業収益		
受入手数料	136	214
トレーディング損益	843	762
金融収益	83	25
その他の営業収益	61	85
営業収益計	1,125	1,088
金融費用	38	11
純営業収益	1,087	1,076
販売費・一般管理費		
取引関係費	185	253
人件費	339	319
不動産関係費	327	311
事務費	11	7
減価償却費	47	63
租税公課	34	40
その他	25	21
販売費・一般管理費計	970	1,017
営業利益	117	59
営業外収益		
為替差益	0	6
貸倒引当金戻入額	1	0
未払配当金除斥益	0	0
その他	0	0
営業外収益計	2	8
営業外費用		
匿名組合投資損失	4	5
固定資産除却損	3	0
その他	0	0
営業外費用計	9	6
経常利益	110	61
特別利益		
金融商品取引責任準備金戻入	3	0
特別利益計	3	0
税金等調整前四半期純利益	114	61
法人税、住民税及び事業税	51	9
法人税等調整額	△18	17
法人税等合計	33	26
四半期純利益	81	35
親会社株主に帰属する四半期純利益	81	35

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
四半期純利益	81	35
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	9	7
為替換算調整勘定	4	△117
その他の包括利益合計	14	△110
四半期包括利益	95	△74
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	95	△74

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

当社グループは外国為替証拠金取引事業を主たる業務としており、お客様にはオンライン上での取引環境を提供する非対面型のビジネスモデルとなっております。

海外金融事業においては、新型コロナウイルスの感染拡大による海外への渡航自粛・制限、国内における外出自粛により、対面営業の制約等による影響が見込まれますが、その代替としてテレビ会議システム等のツールを利用したオンライン営業を行っていること等から、当社グループの事業活動全体として大きな影響はございません。

当社グループの繰延税金資産の回収可能性等の会計上の見積りにおいては、新型コロナウイルス感染症による現時点における重要な影響はないと仮定し、見積りを行っております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	国内金融事業	海外金融事業	合計		
純営業収益	645	449	1,094	△7	1,087
セグメント利益	11	103	115	2	117

(注) 1. 「調整額」は次のとおりであります。

(1) 純営業収益の調整額△7百万円はセグメント間取引消去であります。

(2) セグメント利益の調整額2百万円は親子会社間の内部取引の相殺であります。

2. セグメント利益の合計額と四半期連結損益計算書の営業利益は一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	国内金融事業	海外金融事業	合計		
純営業収益	765	321	1,087	△10	1,076
セグメント利益	48	7	56	3	59

(注) 1. 「調整額」は次のとおりであります。

(1) 純営業収益の調整額△10百万円はセグメント間取引消去であります。

(2) セグメント利益の調整額3百万円は親子会社間の内部取引の相殺であります。

2. セグメント利益の合計額と四半期連結損益計算書の営業利益は一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。